和周波発生分光法における三次感受率の効果: 水の分子動力学シミュレーションによる研究

¹東北大院理,²ケンブリッジ大,³京都大学触媒・電池元素戦略ユニット 〇城塚達也¹,平野智倫¹, Michiel Sprik²,森田明弘^{1,3}

Effect of Third-Order Susceptibility in Sum Frequency Generation Spectroscopy: Molecular Dynamics Study in Liquid Water

OTatsuya Joutsuka¹, Tomonori Hirano¹, Michiel Sprik², Akihiro Morita^{1,3}
¹ Graduate School of Science, Tohoku University, Japan
² Department of Chemistry, University of Cambridge, UK
³ ESICB, Kyoto University, Japan

[Abstract] When sum frequency generation (SFG) spectroscopy is applied to charged solid/liquid interfaces, the observed SFG signals include both the second-order and third-order polarizations. The latter is called the $\chi^{(3)}$ effect, which mainly includes induced molecular orientation by electric fields at charged interfaces. We theoretically evaluate the $\chi^{(3)}$ effect on the SFG spectroscopy of liquid water using molecular dynamics (MD) simulations. The MD simulations enable us to definitely calculate the $\chi^{(3)}$ susceptibility as a bulk property, and thereby separating it from the usual $\chi^{(2)}$ effect shown in the SFG spectra. The calculated results of $\chi^{(3)}$ for liquid water are fairly consistent with the experimental estimates. The present finding is utilized to analyze the spectral change of SFG at the air/water interface under electric fields and at the charged silica/water interface. The present analysis of the spectral changes allows for distinguishing the intrinsic change of the interface structure and the $\chi^{(3)}$ effect from bulk liquid.

【序】和周波発生(SFG)分光法や第二次高調波発 生(SHG)分光法は様々な界面構造の詳細を明らか にすることができる。しかし荷電した固液界面では、 電荷のつくる電場が液体内部に浸透して、新たな三 次の寄与が生じる。これは表面第一層ではなく拡散 層からの信号となって、界面選択性にも影響する。 二次($\chi^{(2)}$)と三次($\chi^{(3)}$)の応答を実験的に区別す るのには必然的に曖昧さが含まれ、これまで理論的 にも明らかにされていない。

よって、本研究では水に対する SFG 分光法における る三次の感受率 $\chi^{(3)}$ の効果を理論的に調べる。[1]



Fig. 1. SFG spectroscopy at a charged silica/water interface.

明確に二次と三次の応答を区別するためバルク水の分子動力学(MD)シミュレーションを用いて $\chi^{(3)}$ を計算し、実験と比較する。更に、得られた $\chi^{(3)}$ を用いて荷電したシリカ・水界面(Fig. 1)のSFG スペクトルを解析する。

【方法】ここで、バルク水で $\chi^{(3)}$ を計算する条件を説明する。三次元周期境界条件で 500 個の水分子[2]を用いた。電場強度は $E_0 = 0.1$ 、0.3 V/Å とした。次に、同じ水モデ ル 500 個と 2 つのシリカの板を用いて MD シミュレーションを実行した。シリカの構 造は表面のヒドロキシル基以外α-石英に拘束した。脱プロトン化した表面は4つのプロトンを引き抜いてモデル化し、この負電荷を相殺し水中に 電場をかけるため反対側のヒドロキシル基の部 分電荷を増加させた。

【結果・考察】計算された yyzz, yzyz, zzzz 分極の $\chi^{(3)}$ を Fig. 2 に示す。このスペクトルの虚部は 3250 cm⁻¹付近にピークを持ち 3500 cm⁻¹付近に小さな ピークが見られる。その線形は IR や Raman ス ペクトルに似ているが低振動数側が強調されて いて、free OH のバンドは見られない。一方、実 部は低振動数側で正のピーク高振動数側で負の ピークを示す。これらの線形は実部・虚部共に荷 電した水界面での実験の見積もり[3]と一致する。

得られたスペクトルを更にシリカ・水界面(Fig. 1) におけるスペクトル変化に適用する。Fig. 3 は中性と脱プロトン化した界面における計算された SFG スペクトル ($Im\chi^{(2)}_{yyz}$)を示す。2 つの スペクトルはそれぞれ低い pH と高い pH で測定 された実験の SFG スペクトル[4]を定性的に再現 した。 バルク成分を排除し界面における本質的 なスペクトルを抽出するため、脱プロトン化した シリカ・水界面における $Im[\chi^{(2)}_{yyz} + \chi^{(3)}_{yyzz} \Phi]$ をさ まざまな深さ方向のカットオフに対して Fig. 4 に示す。このスペクトルは界面から約7Åで収束 し、正のピークは中性の界面(Fig. 3) と比べる と強くなっていることが分かる。

同様の解析で空気・水界面における電場によるスペクトル変化を説明できた[1]ことから、この解析は界面構造の本質的な変化とバルク溶液のχ⁽³⁾効果を分離するのに強力な手法であると分かった。

【参考文献】

[1] T. Joutsuka, T. Hirano, M. Sprik, A. Morita, *Phys. Chem. Chem. Phys.*, DOI: 10.1039/C7CP01978E (2017). (PCCP HOT Articles)

[2] T. Ishiyama, A. Morita, J. Chem. Phys. 131, 244714 (2009).

[3] Y.-C. Wen, S. Zha, X. Liu, S. Yang, P. Guo, G. Shi, H.

Fang, Y. R. Shen, and C. Tian, *Phys. Rev. Lett.* **116**, 016101 (2016).

[4] A. Myalistin, S. Urashima, S. Nihonyanagi, S. Yamaguchi, and T. Tahara, *J. Phys. Chem. C* **120**, 9357 (2016).



Fig. 2. (a) $\chi^{(3)}_{yyzz}$, (b) $\chi^{(3)}_{yzyz}$, (c) $\chi^{(3)}_{zzzz}$ of bulk water. The solid and dashed lines are calculated with $E_0 = 0.1$, 0.3 V/Å, and the black and red lines denote the imaginary and real parts.



Fig. 3. $Im\chi^{(2)}_{yyz}$ at neutral and deprotonated (negative side) silica/water interfaces.



Fig. 4. Im[$\chi^{(2)}_{yyz} + \chi^{(3)}_{yyzz} \Phi$] at the deprotonated silica/water interface.